

『聞き書き集』⑩

平成29年3月発行

いけだ まさひろ
池田 正宏 さん

昭和12（1937）年2月23日生 80歳

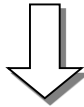
～親子3代郵便局員物語～



喜茂別町教育委員会

「聞き書き」とは？

- ◇「聞き書き」とは、人から聞いた通りに書き取った記録のことです。
- ◇「聞き手」が「話し手」の方のお宅などにおじゃまして、お話をボイスレコーダーに録音します。
- ◇寄稿文と録音からできるだけお話しされた内容や口調を生かして、話し言葉で文章にまとめます。
- ◇それを本人に、確認や修正をしてもらいます。
- ◇「聞き手」の感想や批評は一切加えていません。



- ◎その人の経験や努力から、生きる知恵を学んだり、自分のこれからの人生に活かしたりすることができるかもしれません。
- ◎その人の人生を知ることにより、理解が深まり、支え合うことの大切さや、人と交流することの楽しさを伝えてくれるかもしれません。

1 鈴川地区で生まれて

私は、生まれも育ちも鈴川 ① で、この前（平成 29 年）の 2 月に 80 歳になりました。ちなみに妻も歳は違いますが、同じ誕生日なんです。

私の祖父（池田 庫太郎氏 ②）が真狩村から入植した当時はこの辺りは「上尻別」という名称で呼ばれていましたが、昭和 13 年に字名を改称しようということになって、名前を公募することになり、いくつか候補がでたみたいなんだけど、そこで採用されたのが今の地名「鈴川」なんだよね。

実は、この「鈴川」の応募者はうちの父で、入植当時の地主だった鈴木与助さんと尻別川から一文字ずつ拝借して「鈴川」と名付けて応募したのだと聞きました。

鈴川は、道路は広くなったけど地区の作りは変わってないね。

今の鈴川の地形は、郵便局舎が建てられたあたりに、胆振縦貫鉄道を通すのに工事をしたとき、盛り土をして、高くしたんだよね。もともとは、尻別川とそんなに高さが変わらなかったね。

機械とかなかった時代だったから、手作業で土を固めていて、作業員の中には、囚人の人もいて、皆赤いふんどしをしめていたね。作業がとても大変で、囚人たちが逃げてもすぐわかるように赤い禰をしめてわかりやすくすると聞いたよ。

他には、脇方（京極町）なんかにも鉱山があってそこにも囚人の人が来ていたようだよ。

そのころは、商店が 3 件以上あって、個人の病院や旅館もあってね。馬車が主な移動手段だったから蹄鉄屋さん、あと、自転車屋さんや、修理専門の自転車屋さんもあったね。

今でもある朝野商店のほかに、私の祖父が営んでいた澱粉工

場や雑貨屋があって、郵便局と併せて開いていてね。あと、農協の配給所もやっていたんだよ。収穫のある秋までに必要なものを配給していたんだね。

そのあと、親族に商店の経営を任せて、私たち一家は、郵便局の仕事を続けていたんだよ。



【昭和初期の鈴川地区】



※①鈴川地区

明治 35 年岩手県本宮村を中心に鷹羽喜太郎を団長とする 5 戸 34 名が当時の上尻別（現福里）に集団移住した。碑は、昭和 43 年関係者により建立され、昭和 56 年現在地に移設された。

鈴川の呼称は、昭和 13 年 9 月に南部団体移住の先駆者である、鈴木与助の名字鈴木の一字を取り、尻別川と合わせ鈴川とした。

※②池田 庫太郎 氏

池田正宏氏の祖父であり、真狩村より鈴川地区に移住し、以後自営業を営む傍ら、上尻別郵便局取扱所（昭和 4 年）開設の際、初代郵便局長となる。

昭和 12 年より喜茂別町議会議員に当選し、昭和 22 年の公職選挙法施行に伴う、町議会議員選挙に当選したのち、第 2 代喜茂別町議会議長（昭和 22 年 4 月～24 年 7 月）を歴任。昭和 33 年 12 月死去。

父の代の時は、終戦後町もお金がない時代で、資金不足の時代だったので地域の人たちが協力して資金調達をかってでたんだよね。

鈴川も、栄えていたけど、開墾当初は、近くでは、花丘も活気があって、飲み屋さんなんかもあったみたいだね。

ここ（前ページ写真上）が昔の鈴川の道路だよ。舗装なんてされていなかったし、すごく細いよね。

そのあと、胆振線が開通して、鈴川にも駅ができたんだけど、この「鈴川」という駅名が静岡に既にあったもんだからこちらの鈴川は「北鈴川」になったようだね。

当時は 80 世帯以上くらいありました。今では 50 世帯くらい

になってしまったのかな。

当時の写真は、自分で撮っていたね。私の父が当時としてはモダンな人で、ガラスを原版にしてつかうものがあったね。

車の無い時代だったから、馬車や馬そりが移動手段だったね。今みたいに除雪するわけじゃないから、道路にはたくさんの雪が積もって、その上を馬そりが通るもんだから、家や商店の入口よりずっと高いところに道路があったよ。

葬式のときは地区総出で行っていたから、たくさん人が関わっていたね。葬儀の時の、写真を見ると、棺桶を真ん中にたくさんの人が写っていたね。冬は、棺桶を馬そりでひいて墓地まで運んだもんだよ。



【家族とともに（池田氏写真中央最後方）】

当時の小学校には、天皇陛下の遺影をまつる祠（奉安殿）があって、私たちが小さい頃は毎日お参りをしていたね。私が、小学生の頃戦後になって取りこわされたけどね。最敬礼をして通学したよ。

戦争の時代は、空襲こそなかったものの、鉄が不足しているため多く使うもんだから、火鉢やなべ、かまなんかの日用品まで軍へ送っていましたね。さっき話した奉安殿の銅製の金具なんかも持っていかれましてね。

近いところで、室蘭で大きな空襲（艦砲射撃）があって、その音が鈴川まで聞こえていたというのを聞きましたね。それだけ大きな音がでていたし、被害も大きかったんだろうね。

昭和 23 年 5 月 11 日に大火があって、その時祖父が郵便局長と喜茂別町議会議長を併任していて、喜茂別の本町の大半が燃えてしまったので、その手助けと焼け出されてしまった人のために、クレードルのトラックが鈴川まで来て、炊き出しをしていたんだよ。

その時の思い出は、家庭で飼っていた豚が、やけどをしてあちこち逃げ回っていて痛々しかったのと、クレードル製品の缶詰が焼け焦げてしまって、それを安く払い下げして配っていたけど中身も焦げ臭くて食べれたもんじゃないのが強く残っているね。

その教訓を生かして、町内会の行事として全家庭が交代でずいぶん長い間夜回りをしていたね。私たちの子どもたちも拍子木をもってまわっていたね。



【(上)池田氏の幼少期・(右) 父母と】

2 学生時代の思い出

昔は、お寺さん（龍溪寺）で保育所もやっていたね、地区ができたときから教育は熱心だったよ。

父は、出兵したけど、体があまり丈夫ではなかったのも、長い期間はいなくて戻ってきたね。

当時は、食べるものもなくて、みんな、弁当を持っていったけど、白米なんて食べることはほとんどなくて、麦や粟や稗なんかをたべていたね。

うちの祖父は澱粉工場も営んでいたのも、でんぷんかすを皆さんに分けていたね。

鈴川小学校を卒業し新制中学校まで鈴川で、その後倶知安高等学校へ進学し、上智大学外国語学部英語科を卒業しました。

高校に通うときは、胆振線を通っていたんだけど、貨物

混合列車で当時福島地区に鉱山があって、そこからも鉱石を運ぶための鉄道が出ていたんですよ。あと、京極の脇方にも鉱山があったから、その入れ替え作業のために、それぞれで30分ずつ待ち時間があつたんだよね。だから、朝6時の汽車じゃなきゃ学校に間に合わないものだからその間勉強できたね。

そのときは、倶知安高校に通うための鉄道が、胆振線のほかに、函館本線もあって、倶知安の地元も併せて三つ巴で、学力を競っていたんだよ。だから、「今回は胆振線が勝った、負けた」なんて言いながら競っていたよ。

当時の鈴川中学校の同期の卒業生は35名で、そのうち倶知安高校へは4~5名進学し、他には苫小牧工業高校、喜茂別高校の定時制にいったのもいたね。

通学時間のハンデをプラスに考えて勉強していたね。部活をやっていたから帰るときは午後7時、何もなくても4時は過ぎていたね。

母親は、毎日弁当を作ったりして大変だったと思うよ。

小さい地区だけど、地域ぐるみで頑張って勉強していたんだね。



【高校時代】

3 鈴川郵便局員時代

祖父の時代の三等郵便局時代は、国からの請負事業でしたので、国からの交付金の中で職員を雇用していたので、給料は局長の裁量で決まっていたね。

戦後、職員組合ができてからは、職員全員が国家公務員となり、全国一律の給与体系のもと、運営されるようになりました。

祖父の時代は**特定局制度（③）**というのがあって、国の財源が乏しい時代だったので、郵便局配置したい地区に住んでいる人に依頼をして、郵便局舎の建設をさせたのち、家主を局長として任命したんですよ。なので、特定局長ではあったけれども、郵便局の仕事は何も知らなかったみたいで、父が局長代理ということで、統括していたね。

大学を卒業した後、民間企業で1年半ほど働いていたんだけど、私は長男で祖父が鈴川郵便局初代局長で、父（池田正儀氏）が2代目だったので会社を退職して戻ることになったんです。

私が郵便局員として勤めだしたときは、父が局長をしていて、職員が12名ほどいました。郵便局の母屋に家族で住んでいました。父は仕事に関しては厳しい人で、親子と言えども局長と職員という関係で勤務していました。

昔の郵便局は、転勤とかなくて、終身採用された郵便局に勤務することになっていたんだけど、私が勤めて数年後、広域人事がはじまって、役職が変わると異動しなければならなかったから、喜茂別の郵便局にも10年くらい勤務したね。

郵便局の業務は、郵便、貯金、保険と分けられていて、普通郵便局はそれぞれで担当が分かれていたけれども、特定郵便局であった鈴川郵便局は、3事業すべて窓口と外務員で行っていたよ。

喜茂別でも、喜茂別、鈴川、双葉、栄に郵便局があったね。

特定局については、本州とかではまだまだ世襲という形で局長をしている方が多くるようですが、私のころは、郵政局で試験や面接を受けて局長に任用されましたよ。

※③特定局制度

明治時代に郵便制度が始まった際、民間の協力で全国に開設された「郵便取扱所」が前身。特定局長は 1948（昭和 23）年に国家公務員になった。2007（平成 19）年民営化で郵便局会社が窓口、郵便事業会社が配達の仕事を担当することになり、特定局長という職名はなくなった。旧特定局は約 1 万 9 千局で、全体の約 8 割を占める。

4 鈴川郵便局

郵便局には、普通局、特定局がありますが、全国に 24,000 局あるんです。鈴川郵便局は、現在は無集配となっていますが、私が在職していたころは、集配特定局でありました。

集配特定局というのは、窓口業務と外務職員配置になっている郵便局を言います。

全国どこの町に行っても、郵便局があるのは、郵便局サービスを全国であまねく公平に提供し、ネットワークで一つのインフラとしてとらえていたからですね。

戦後間もなくまでは、電話交換業務もあって、まだ今みたいに各家庭に電話が無かった時代で、まず、郵便局に電話をつないで、郵便局にいる電話交換手が応対して、つないでほしい家の局番を聞いて、交換手が手動で電話線を差し替える業務をし

ていたんだよね。私もやっていた時期がありましたよ。

今でもある、為替や、貯金、保険も開局当時からやっていました。特に戦時中は、軍事国債というのがあって、今でいう国債を発行して、国が資金調達をしていましたね。昔の家の倉庫にはポスターなんかもあってね。当時としてはとてもきれいなポスターで、それをつかって資金調達をしていたんでしょうね。戦争が終わってそれらは国債の証書は紙切れになってしまったんですよ。



【旧局舎（昭和16年建設）】

○鈴川郵便局の歴史

- 昭和 4 年 上尻別郵便局取扱所開設
昭和 6 年 無集配三等郵便局に昇格、上尻別郵便局となる
郵便、電信受付、電話窓口取扱い、為替貯金、
簡易保険、年金取り扱い開始
昭和 13 年 電信・電話業務を開始
昭和 14 年 鈴川郵便局と改称
昭和 16 年 現在地に局舎を新築移転する。
無集配特定郵便局となる。
昭和 21 年 電話交換業務を開始
昭和 22 年 郵便集配業務を開始。集配特定郵便局となる。
昭和 38 年 電話交換業務を廃止。
昭和 42 年 電報配達業務を廃止
昭和 50 年 現在の局舎となる
昭和 59 年 双葉郵便局集配区を統合する。

歴代局長

- 池田 庫太郎 (昭和 4 年 8 月～同 29 年 7 月)
池田 正儀 (昭和 29 年 7 月～同 54 年 6 月)
池田 正宏 (昭和 54 年 6 月～平成 14 年 6 月)
木下 英俊 (平成 14 年 7 月～同 16 年 6 月)
清野 厚 (平成 16 年 7 月～同 22 年 3 月)
広尾 淳 (平成 22 年 4 月～同 27 年 3 月)
米陀 譲 (平成 27 年 4 月～現在)

(平成 29 年 3 月現在 敬称略)

5 郵便局舎の思い出

すごく立派な郵便局でね。昭和 16 年に建てられて当時でも珍しい 2 階建ての建物で、郵便局のマークを左官屋さんが作ってくれたんだよね。建物はとても広くて、郵便局には母屋が続いていて、局長家族はそこに住んでいたんだよ。だから通勤することなく、出勤できたんだよ。外装は、モルタルで内装には漆喰を使っていて、床もフローリングで、今みたいに資材がたくさんあったわけじゃないから、ストーブを使って、乾燥させて作っていましたね。

床を磨くときも、うちの母親や、家内が今みたいにワックスが無かったから代わりにクルミを砕いたもので磨いていて、いつもぴかぴかでしたよ。

素敵な内装で鈴川の子の誇りだったんだよね。

北海道でも有名な構造の局舎で、昭和 45 年に郵便創業 100 周年を記念した映画（タイトル：明日に向かって突走れ）を郵政省で撮影することになって当時の郵便局や地区の住宅が撮影地に選ばれたんだよ。東映の撮影班がいて、1 週間泊りがけで撮影して、当時の有名な俳優さんがたくさん来て、地域の人たちもエキストラで出たんだよ。うちでも、ロケのスタッフや俳優さんにお昼をふるまったりしたんだよね。

そのあと、完成した映画を消防番屋で上映会があって、鈴川の人たちが集まって観たんですよ。

旧局舎は、国道の拡幅で取りこわしてしまったんだよね。残念だったけど仕方ないよね。

新しい局舎になったときは、時代も時代だから住むところは分けたほうがいいってことで、今の家を建てたんだよね。

6 局長時代の思い出

鈴川郵便局は、とても成績が良い郵便局だったんですよ。郵便局の成績は、管理体制、郵便、郵便貯金、簡易保険業務の総合成績で評価されるんですが、当時は国の機関でしたので、数年に一回、抜き打ちの総合考査があったんです。郵政局から専門の監察官が来まして、3日くらいで局の事務処理や営業成績などを調べるわけなんですよ。交通機関も今ほど発達していないし、地域に宿泊施設も無かったので、監察官は局長の私宅に宿泊したんだよね。家内にも気を遣わせたんじゃないかな。

後日、考査の結果を知らせてきて、北海道でも5本の指に入る局であるという評価をいただき、南後志地区でもトップクラスの郵便局だったんですよ。

局員の人たちがとても頑張っていましたからね。

ほとんどが「優」をいただいていた、なかなかとれるものではないと伺っています。

また、平成10年度には、北海道のモデル局ということで、その際は、全道で3局に選ばれましたね。非常に光栄でしたね。

職場規律については、私の父もそうでしたけどとても気を付けていました。お互い毎日顔を合わせるわけですが、そのあたりルールはルールとして規律に関しては気を配っていました。しかし、その反面、局員とは酒を飲む機会はとても多かったですね。当時は酒豪も多くてよく酒を飲みながらいろんなことを話しましたね。それで、コミュニケーションも取りましたし、若い人たちも、馬力があつたのかなと思います。

何に対しても一生懸命に取り組んでいましたし、保険業務にしても、目標を達成するために局員一丸となっていましたね。地区として限られた人しかいないところでしたが、よくやって

くれたと思います。

環境的には、厳しい状況だったと思いますが、職員をしっかりと評価する姿勢が大切だと実感いたしました。評価をしっかりとしなければ、部下はついてこないと思いますね。なんでもいから頑張れというのではなく、目標を持って何をどのように取り組むかをはっきりとかつ、具体的に示していかないと、業績は上がらないと思います。管理者は、常に自己研鑽をし、知識と理屈で相手を納得させなければいけないと思いますね。

対立する相手がいたとしても、それは仕事上、役職上であって、お互い切磋琢磨していれば良好な人間関係を築いていけると思いますよ。

あとは、どうやって、部下の意識を持ち上げていくかですね。保険の目標を達成したときなどは、郵政局の担当に電話をいれて、状況報告をすると、電話口から郵政局の保険担当者全員の大きな拍手が聞こえてきて、それを局員に聞かせたりしたね。生の評価が聞けて、局内も盛り上がりましたよ。達成感はあったね。

ここで、局長時代に心掛けていた信念・想いをお話しします。

○経営者の役割

事業を円滑に遂行していくためには、これを支える職員の能力開発が必要不可欠である。「実践的な能力開発と長期展望に立った人材育成に取り組まなければならない。」との認識のもとに「職員の育成は職場が基本」「日常の仕事を通じての人材育成」をモットーとして、職員一人一人の能力や意欲に応じた OJT (On the Job Training) を行う必要があるとの考え、職場において実践してきました。

そして、この OJT の重点対象者は

- ①新規採用職員
- ②採用後 2 年間を経過した職員
- ③所属所を異にして転入した職員

として行いました。

「自ら考え、自ら行動する職員の育成は職場が基本」として、計画的に取り組み、職員のパワーアップに努めてきたところで、その結果として、鈴川郵便局出身の局長の輩出は、8 名となり職員育成の立派な成果を収めることができたと自負しております。

○地域に親しまれる郵便局づくり

郵政事業は、国民の税金を一切使わずに独立採算の事業であることから、お客様に親しまれる郵便局でなければならないという信念のもとに、職員にお客様意識の徹底を浸透させるため、「いらっしゃいませ」「有難うございました」「毎度ありがとうございます」の声掛けを実践させ、毎年、接遇サービスのアンケートを実施し、その回答を分析、職員に周知の上、サービス向上につとめ、「窓口サービス優良局」として推奨を受けました。

○地域に貢献する郵便局を目指す

年間 6 度「郵便局だより」を発行し、これを全戸に配布、地域の特産品のアスパラ・じゃがいも・メロン等を「ふるさと小包」として、全国に送付しました。また、発送時期になると、立て看板・ディスプレイを自局職員が手作りで作成し、周知に努めてきたところであります。

○郵便局営業目標の完全必達

郵便局には、郵便・貯金・保険の 3 事業の営業目標が毎年郵政局より示されますが、職員全員の協力のもと完全達成を続けていくことができたことに対して敬意を表しております。

7 教育に携わって

鈴川小学校の PTA 会長を 2 年間やらせていただきましたが、その後昭和 58 年に喜茂別町教育委員に委嘱され、鈴川小学校の先生方とも交流が盛んとなりましたね。

平成 19 年から教育委員長も拝命し、平成 24 年 9 月まで 29 年 6 か月間にわたり教育行政にも関わりましたね。

今でも、学校の行事には、地域が参加して、運動会や学芸会に参加し、運動会では、地区対抗でリレーや綱引きなんかもやってね、とても盛り上がっていました。

学校のことには、積極的に協力して、スキーなんかも地区で発電機を購入して照明を設置して熱心にやっていたね。

意識しているわけではないけど、地域での教育力というか、子ども達をみんなで育てていこうという気持ちは強かったかもしれないね。

私が教育委員になったころ、今の教育長のお父さん（細田時友校長）が赴任されてからは、その気運が高まって、学校を中心に地区がいろいろな行事をやっていたね。

細田校長の前任の時代から発行していた文集「ななかまど」についても、内容が充実して、みんなで取り組んでいたね。

今もそうですが、地域の人たちは、学校の校長、教頭はもちろん、先生たちに対して尊敬の念をもっていましたから、教育に対して特別な印象をもっていましたね。

だから、先生たちの歓送迎会だったら、地区の人全員あつまってもてなしたよ。

学校との距離感は近かったし、みんな学校に関心をもっていましたね。



【教育委員時代（旧栄小学校視察）】

あと、鈴川小学校の 80 周年、90 周年の時の実行委員長をしていて、その時に三瓶長儀さんから絵手紙をたくさんもらってね。原画がいっぱいあるんだよね。むかしの風景が描かれているんだよね。

8 瑞宝双光章受賞

平成 19 年に**瑞宝双光章**（④）をいただきました。

70 歳を超えて、郵便局業務で一定の役職に就かないともられないようで、道内はとても広いので、20 連絡会といって、郵政省の指導で道内を 20 の地区に分けて、そのなかで各役員を配置して、業務成績の良い地区から選出された役員の業績を加味していただき、総務省を通じて推薦していただくんですよ。

こういった、章を受けられるのも内助の功があつてのものだと思いますね。大学を卒業してからずっと仕事一筋でやってき

て、鈴川郵便局に勤めて3年目に妻と結婚をして、いままでずっと支えてきてくれましたよ。

授賞式は東京の皇居で行われました。実は父も同じ叙勲を賜り、非常に光栄なことだと感じました。

授賞式は、せっかくいただくので東京まで家内と行きましたね。天皇陛下の御紋の入った記念品もいただきました。

前日に、郵政局からの引率が3名ほど来ていただいて、新千歳空港から東京まで連れて行ってくれるんですよ。

東京品川プリンスホテルで、総務大臣より勲記、勲章の伝達を受けたあと、授章対象者が全員バスに乗って皇居に向かうんですが、バス80台の大所帯でものすごい人数でしたね。

宮中で松の間で拝謁式があるんですが、陛下の拝謁の榮譽を夫婦ともどもに賜り、大いに感激しました。

その後にご挨拶をされるんですが、とても声の素敵な方だなと思いましたね。一言一言が胸に沁みってくる気がしましたよ。そして、たまたま、入場した場所が前から2列目で天皇陛下の真正面に立つことができました。家内は隣に車いすの老婦人がおられその夫人に、陛下が大丈夫ですかとお声を掛けられていたのが、印象深かったと言っておりました。

被災地などを訪問されて、被災者のかたに声掛けをされている映像を見る機会がありますが、被災者の方が感激されて、元氣を取り戻していく様子を見ると、やっぱり象徴としてのお役目というのは大事なことだと思いましたね。

その後、倶知安町の第一会館で叙勲祝賀会を開催していただき、町長さんはじめ多数の方々にお祝いをしていただきました。

そのなかで、親子二代にわたって受賞したことをお話しさせていただきましたよ。

いわゆる生存者叙勲と言って、生きているうちに受賞するこ

とも難しいみたいだね。

おかげさまで貴重な体験をさせていただきましたね。



【勲章をつけての記念撮影】

※④瑞宝双光章（勲五等瑞宝章）

日本の勲章の一つで、瑞宝章6つのなかで5番目に位置する。2002（平成14）年8月の閣議決定「栄典制度の改革について」により、それまでの勲五等瑞宝章から名称が変更された。公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、職務を果たし成績をあげた人に対して、6番目の瑞宝単光章以上を授与するとなっている。受章者には保護司や小・中学校長などが多い。伝達は所管大臣が行うが、総務省および厚生労働省関係は都道府県知事が行う。

9 保護司としての10年

金町長の時代に推薦をうけてそれから20年くらい保護司(⑤)をしていましたね。札幌の裁判所の保護観察の事務局で研修を受けて辞令をもらうわけなんですよ。

保護司というのは、何かしらの法を犯して服役し、出所して保護観察中の期間の方の更生をお手伝いする仕事だね。仕事と言っても報酬とかはないからボランティアだね。私と同じ時期に町内にも数名保護司の方がいて、当時で3人くらいの方のお世話をしていましたね。罪の種類はバラバラでしたね。

主な仕事は、対象者との面談や日常生活のサポート、時には就職の相談や世話をしたね。

保護観察官と一緒に仕事をするんだけど、完全な更生に至るのはなかなか難しいみたいだけれど、携わった方が立派に更生されて、幸せな生活を送ってくれているよう願っております。

保護司についての、お仕事をさせていただいてとても貴重な経験になりましたよ。

※⑤保護司

保護司は、保護司法に基づき、法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員(実質的に民間のボランティア)。保護観察官(更生保護に関する専門的な知識に基づいて、保護観察の実施などに当たる国家公務員)と協力して活動を行います。

10 これからの鈴川について

この地区も、高齢化が進んでいき、人口の減少は避けられないのかなと思いますね。私たちよりも高齢の方も多いから、限界集落になってしまうんでしょうかね。今は、80歳を超えても元気な人はいるけれど、一人で住んでいる高齢者なんかは、とても心配ですね。町内にきらめきの郷ができて、そこに入所している方も多くなったと聞いていますね。

一方、町の取り組みで、この4、5年若い世代の方の転入も増えてきているので、少し明るい兆しが見えてきているのかな。

この方たちが、地域の後継者と共に手を携えて、先人が開拓してくれたこの地をより一層活性化させてもらいたいと思いますね。

昔は、町内各地に小学校や中学校があったけれど、御園小学校、羊蹄小学校、双葉小学校も閉校してしまったものね。鈴川小学校も現在9名（平成28年度現在）の在校生ですが、皆で盛り上げて存続できるよう頑張ってもらいたいですね。地域に学校が無くなると過疎化が進みますからね。



【昭和初期の鈴川小中学校】

○池田 正宏 氏 略歴

| | | |
|-------------------|---------------------------------|------|
| 昭和 34 年 3 月 | 上智大学外国語学部英語科卒業 | 22 歳 |
| 昭和 35 年 10 月 25 日 | 鈴川郵便局に採用 | 23 歳 |
| 昭和 39 年 10 月 1 日 | 郵政事務官に任命される | 27 歳 |
| 昭和 39 年 10 月 30 日 | 保険年金内務事務優績者として札幌 郵政局長から表彰される | 27 歳 |
| 昭和 40 年 10 月 28 日 | 保険事業優績者として札幌郵便局長 から表彰される | 28 歳 |
| | ※その後各業務事務優績者として表彰される | |
| 昭和 54 年 6 月 30 日 | 特定郵便局長に任命され、鈴川郵便局長 に発令される | 42 歳 |
| 昭和 55 年 9 月 20 日 | 保護司として委嘱を受ける | 43 歳 |
| ～平成 12 年 9 月 12 日 | | |
| 昭和 58 年 3 月 10 日 | 喜茂別町教育委員を任命される | 46 歳 |
| 昭和 58 年 4 月 1 日 | 南後志連絡会郵便俱知安部会副部長と なる | 46 歳 |
| 昭和 61 年 4 月 1 日 | 南後志連絡会郵便俱知安部会部長と なる | 49 歳 |
| 平成 3 年 4 月 1 日 | 南後志連絡会郵便理事となる | 54 歳 |
| 平成 5 年 4 月 1 日 | 南後志連絡会総務理事となる | 56 歳 |
| 平成 7 年 4 月 1 日 | 南後志連絡会会長となる | 58 歳 |
| 平成 9 年 3 月 30 日 | 病気を理由に会長を辞任 | 60 歳 |
| 平成 14 年 6 月 30 日 | 定年により退官 | 65 歳 |
| 平成 19 年 10 月 1 日 | 喜茂別町教育委員長に就任 | 70 歳 |
| 平成 24 年 9 月 30 日 | 喜茂別町教育委員長を退任 | 75 歳 |



新町章

《平成 28 年 10 月 12 日制定》

喜茂別町は大正 6 年に真狩村から分村し、平成 28 年に開町 100 年を迎えました。

喜茂別町の人々が未来に夢と希望をつなぎ、新たなまちづくりの創造に邁進することを願い、開町 100 年を出発点として新町章を制定いたしました。

喜茂別町は新町章のコンセプトとして、北海道の主要幹線国道 230 号と国道 276 号が交差する立地条件にあり、喜茂別町を起点として北海道をつないでいくことをイメージしました。